



アホウドリ通信

No. 5

2025年6月6日



発行：
(公財)山階鳥類研究所

【2024/25年 アホウドリ繁殖状況のご報告】いつもアホウドリへのご支援をいただき、まことにありがとうございます。2024年11月から始まった、今シーズンの伊豆諸島・鳥島と小笠原諸島・髯島でのアホウドリ保全活動・モニタリングも無事に終わることができました。今ごろ、巣立ったヒナたちは元気に太平洋の上を飛んでいることと思います。

今シーズンのアホウドリは、鳥島、髯島ともに繁殖が良好で、鳥島では1,336羽、髯島では3羽のヒナが巣立ちました。さらに、鳥島では最新の推定個体数が9,500羽以上となり、順調に増加していると言えます。今回のアホウドリ通信では、各島での調査の様子と繁殖状況をお届けします。

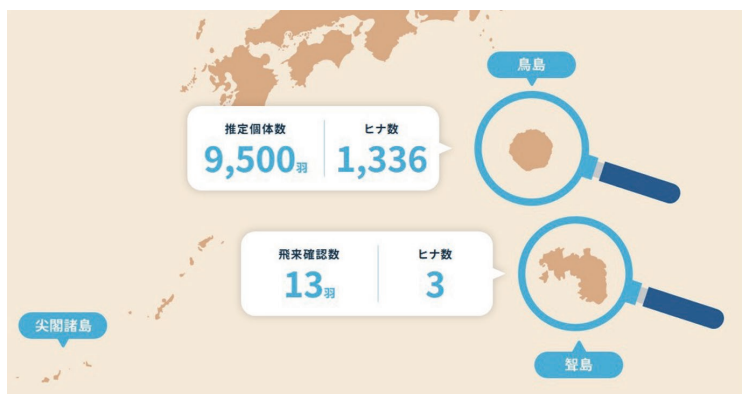


図1 鳥島、髯島における今期のアホウドリの推定個体数・飛来確認数とヒナ数。

■ 髯島で2年連続で3羽のヒナが誕生！

髯島では、アホウドリ新繁殖地形成事業として、鳥島で生まれたヒナを髯島に移送して人工飼育し巣立たせる（2008～2012年）とともに、音声とデコイ（実物大模型）による誘引（2007～2022年）を実施し、アホウドリの繁殖地を髯島に復元する取り組みを行ってきました。今年は、昨年に引き続き、3羽のヒナを確認することができました！



写真1 新しく仲間入りした3羽のアホウドリ。それぞれ、Y87、Y88、Y89の足環を装着。

今シーズンの調査は、以下のとおり、3回実施しました。

2024年 11月 22日～28日 抱卵期調査

2025年 1月 19日～26日 育雛期前半調査

2025年 3月 3日～9日 育雛期中盤調査、ヒナへの足環装着

11月の抱卵期調査では、昨年繁殖に成功した3つがいがお卵を温めている様子が確認されました。そのうち1つがいについては抱卵交代の様子も確認できました。1月の調査では、3巣すべてにヒナがいることを確認しました。3月の調査でも順調にヒナが育っていることを確認し、3羽に個体識別用の足環を装着しました（赤Y87～Y89）。



写真2 抱卵中のアホウドリ（赤田み、2024年11月23日撮影）。

智島で今シーズンに確認されたアホウドリの総数は13羽でした。飛来数は2015/16シーズンから横ばいですが、巣立つヒナの数は着実に増えています。アホウドリは、巣立ち後4～5年目から繁殖に参加しはじめます。昨年までに智島からは、合計12羽のヒナが巣立っています。そのうち、2015年から2022年にかけて巣立ったヒナたちが智島に戻り、うち2羽は繁殖も始めています。数年後にはさらに、智島生まれの鳥たちが帰ってくることが期待されます。今年巣立ったヒナたちにはいつ会えるのか、今から楽しみです。



写真3 アホウドリ親子。左の親は2008年に巣立った人工飼育個体「イチロー」の子で、2016年に智島で生まれた「みらい」（足環番号Y75、2025年3月6日）。

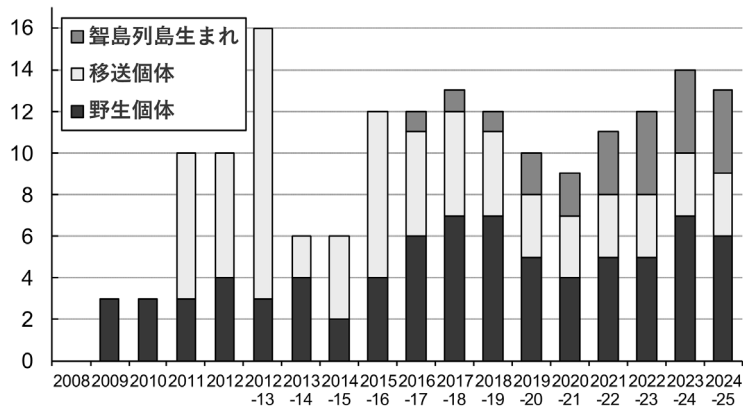


図2 智島への飛来が確認された個体数の年変化。智島列島生まれは、智島と近隣の媒島（なこうどじま）で生まれた個体（1羽）を示す。移送個体は、2008年から2012年に鳥島から智島に移送し、人工飼育で巣立った個体のことを示す。



智島調査 プロジェクトリーダーからのひとこと

おかげさまで2024/25シーズンも無事に3回の上陸調査ができました。今シーズンも、昨年に続き3ペアがヒナを孵し、順調に子育てをする姿が確認できました。また、2022年に巣立ったイチローの子が智島に帰還したことが新たに観察できました。智島で生まれた個体に戻ってくるということは、小さなヒナのころを観察していた個体が無事に巣立ち、4,000km以上離れた北の海で成長しながら、何年も生き延び、生まれ故郷に戻ってきたということを意味するので、畏敬の念を抱くとともに、毎回とても嬉しい気持ちになります。また彼らは、これから智島の繁殖地を築いていってくれる希望の星たちです。今後もこれまでに巣立った、そしてこれからも巣立っていくアホウドリたちが戻ってくることを心待ちにしながら、モニタリングを継続したいと思います。引き続きのご支援、どうぞよろしくお願いいたします。（油田照秋）

■ 鳥島での繁殖状況

鳥島での調査は、2024年11月と2025年2～3月にかけて、2回実施されました。11月の調査ではアホウドリのつがい数（卵の数）を数え、2～3月の調査では主にどれだけの卵が孵化し育っているのかを調べたうえで、すべてのヒナに個体識別用の足環を装着しました。その結果、1,741個の卵から1,336羽のヒナが誕生し、順調に育っていることが確認されました（孵化率：76.7%）。今回の調査では、繁殖地の様子も大きな変化はなく、順調にヒナが育っているようで安心しました。

調査の様子はこちら↓

2024年11月13日～12月2日 鳥島第87次調査隊：[アホウドリ通信 No.4（2025年1月24日発行）](#)

2025年2月15日～3月14日 鳥島第88次調査隊：[X（旧twitter）で発信](#)



写真4 初寝崎コロニーの様子。600羽以上のヒナが育っていた。



写真5 ヒナ（左手前）そっちのけのアホウドリ夫婦。



写真6 クロアシアホウドリのヒナの横に落ちていた大きなイカの足。大きすぎて食べられなかった模様。

● 絶海の孤島からのライブ配信！

今回の調査では、みなさんに鳥島のアホウドリ繁殖地の様子を知っていただくため、YouTubeでライブ配信を試みました。電気がない（ガスも水道も！）無人島からの配信で、手探りの中での実施でしたが、鳥島で繁殖中のアホウドリやクロアシアホウドリ様子を少しはお届けできたのかなと思います。配信は調査隊がいる期間に限られますが、来年以降も実施していきたいと思いますので引き続きよろしくお願いいたします。

YouTubeでのライブ配信をまとめたハイライト動画はこちら↓

[鳥島アホウドリ2025・ハイライト](#)



写真7 ライブ配信に使用した機材。

鳥島調査 隊長からのひとこと



おかげさまで2024/25年繁殖期の鳥島調査も無事に終わることができました。まことにありがとうございます。今回も産卵数とヒナ数ともに順調に増加し、ヒナ数は1,300羽超となりました。ひとまずほっとしています。今回は、新たな試みとして島からのライブ配信にチャレンジしました。アホウドリの未来を考える一助になればうれしいかぎりです。今回のモニタリング結果から鳥島個体群の推定個体数は9,500羽を超えました。順調にいけば次回の繁殖期で、いよいよ1万羽の大台に到達です。引き続きのご支援、何卒よろしくお願い申し上げます。
(富田直樹)

■ サポーター参加のお礼

2024年度（2024年4月～2025年3月）は、515名の皆さまから、合計5,172,000円のご寄附をいただきました。まことにありがとうございます。アホウドリ通信No.4でお伝えしておりますとおり、2025年度は、2024年度までの寄附金をもとに、小笠原諸島智島での調査を3回実施し、鳥島での調査機材を購入させていただく予定です。引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。